

第1回 能動的運転管理の効果的な実施に向けて検討委員会 議事概要

日時：令和3年1月8日（金）10時30分～12時00分

場所：Web会議システムにより開催

栄養塩類の能動的運転管理に関する事例集（案）について、概要の欄で、将来的な予測のために計画処理水量も入れるべきではないか。

これから導入を検討する公共団体もターゲットにした事例集を作成するのであれば、公共団体の導入時、水産部局も含めてどういう体制の中で下水道管理者はどういった役割を担ったのかといった情報を具体的に記述し、これから検討される公共団体にとってひな形として使えるものをまとめた方が有益であると考えます。また、検討のポイントや注意事項をチェックリストとして整理すると今後導入を検討する際に役に立つのではないかと。

事例集に掲載される処理場は、適切な管理を行っている上で能動的な栄養塩類の供給ができています。単純に真似をしても、流入状況や施設の状況が異なるのでうまくいかない可能性もあるが、運転管理上、どういったポイントに留意すれば、他の処理場でも展開できるのかという事を意識して情報を整理することが重要ではないかと。

技術資料でターゲットにする「栄養塩類の増加に課題のある場合」について、窒素の排出率が少ない点、通常の処理に影響がある点など、様々なフェーズの課題があるが、それを意識して整理すると分かりやすくなるのではないかと。

水域側（窒素、リンの過不足状況等）が制約条件になっている場合もあるため、要望側の情報を入れなければ、下水道だけの自己満足で終わってしまうのではないかと。

スポット採水やコンポジット採水など、下水道管理者のそれぞれの採水方法によって、分析結果が異なってくることも考えられるため、今後の技術資料の作成にあたっては、可能であれば24時間の分析結果も整理していければ良いと考える。

既に作成されている手順書（H27年9月）と今年度の事例集と次年度に想定されている技術資料との関係性が不明瞭のため、フロー図として整理すると分かりやすくなるのではないかと。

以上